

# イントロダクション： 被服支廠の歴史等の情報共有

高田 真

アーキワーク広島 代表



# 本日お話すること

## 0. 自己紹介

## 1. 被服支廠とは？ ～その歴史経緯～

## 2. 被服支廠倉庫をとらえるポイント

①圧倒的な大きさ

②広島近代史を体現する存在

③レンガ＋R C、レトロ＋モダン

④貴重な被爆遺構、しかも使える

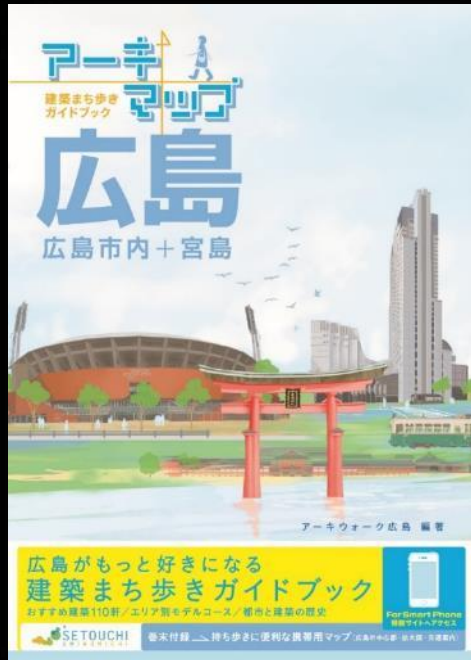
## 3. 各地で進むレンガ建物の活用

## 4. おわりに

# 0. 自己紹介

# ■アーキウォーク広島について

- ・ 建築好きな市民の集まり、 2009年結成
- ・ 広島の建築の魅力を内外に発信する活動を展開
  - ・ 建築ガイドブックの発行
  - ・ 建築公開イベントの開催 等





## ■被服支廠倉庫に関する活動

- ・被服支廠の根本的な課題は**知られていないこと**と捉え、知ってもらうための活動を続けてきた。

2014年 日本建築学会による学術調査をアレンジ

2016年 一般向け見学会とシンポジウムを開催

2017年 紹介冊子「見、知り、訪れ、想う」発行

2019年 ひろしまたてものがたりフェスタの一環  
で一般向け見学会を開催

2020年 保存再生案を作成、シンポジウム開催  
現地見学会を15回開催（計940名参加）

2021年 現地見学会 1回開催（130名参加）

# ■被服支廠倉庫に関する活動



(C) Oda Yasumasa







# 1. 被服支廠とは？ ～その歴史経緯～



Q

問題

---

明治以降の  
日本の首都は？

A

答え

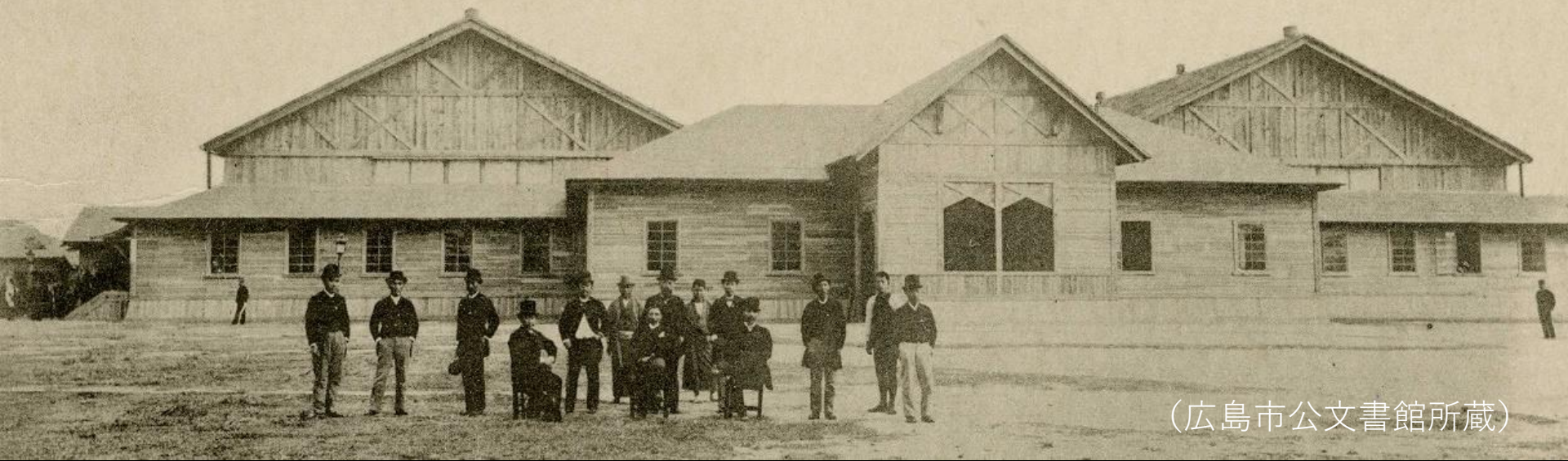
# 東京と広島

※日本の首都を規定する法律はないため、いずれも“事実上の”首都と解釈

■1894年、日清戦争遂行のため広島城に大本營が設置され明治天皇が入城。政府首脳や帝国議会も広島に移動。臨時首都の様相を呈す。

〔当時、東京から鉄道で行ける最西端が広島であり、近代港湾も整備済であったため。〕

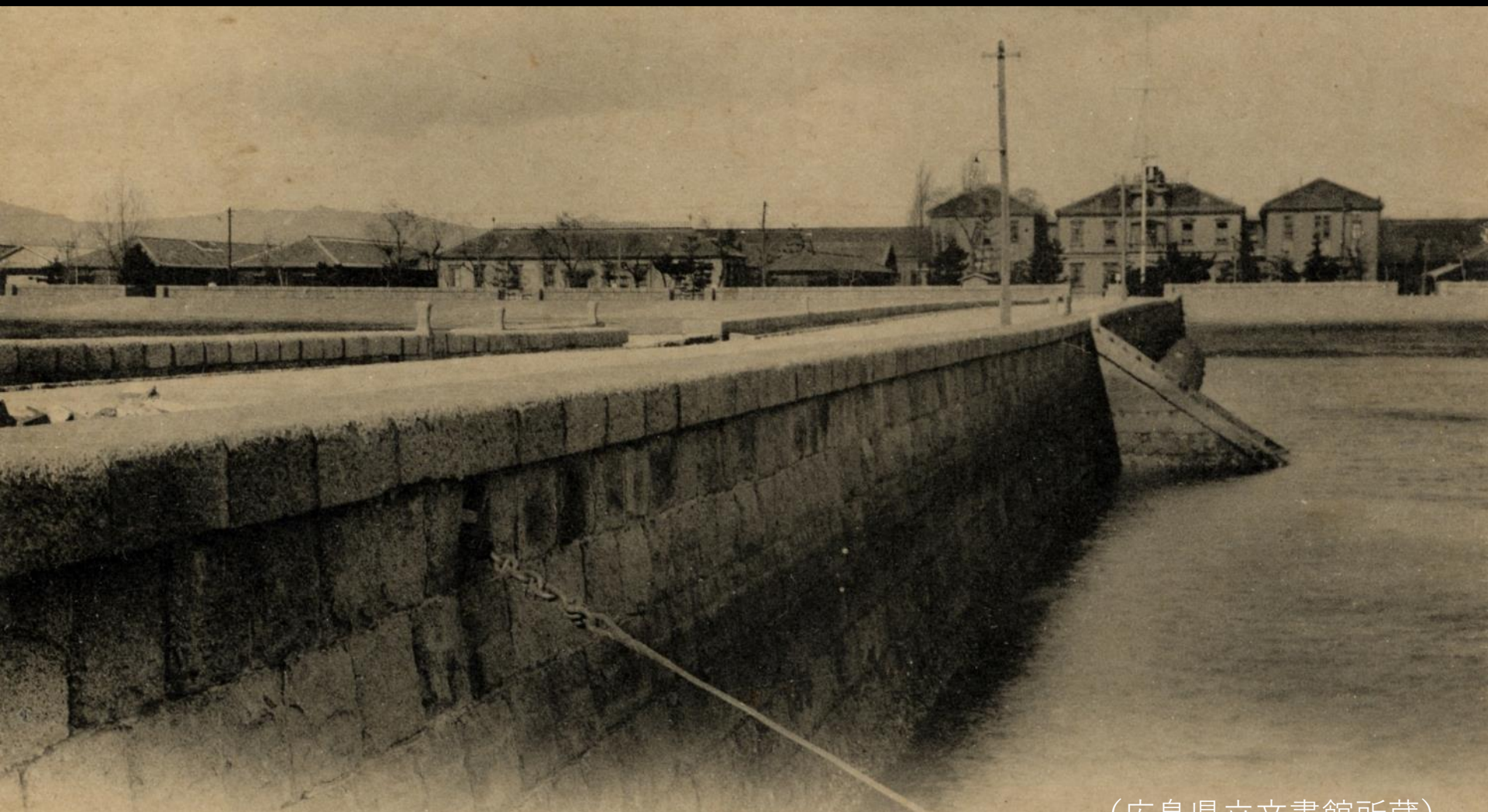
いまの県庁あたりに建設された帝国議会仮議事堂  
(東京以外での国会開催はこれが唯一)



(広島市公文書館所蔵)



# ■日清・日露戦争を契機に宇品港に陸軍運輸部 が置かれ、陸軍全体の輸送を統括。

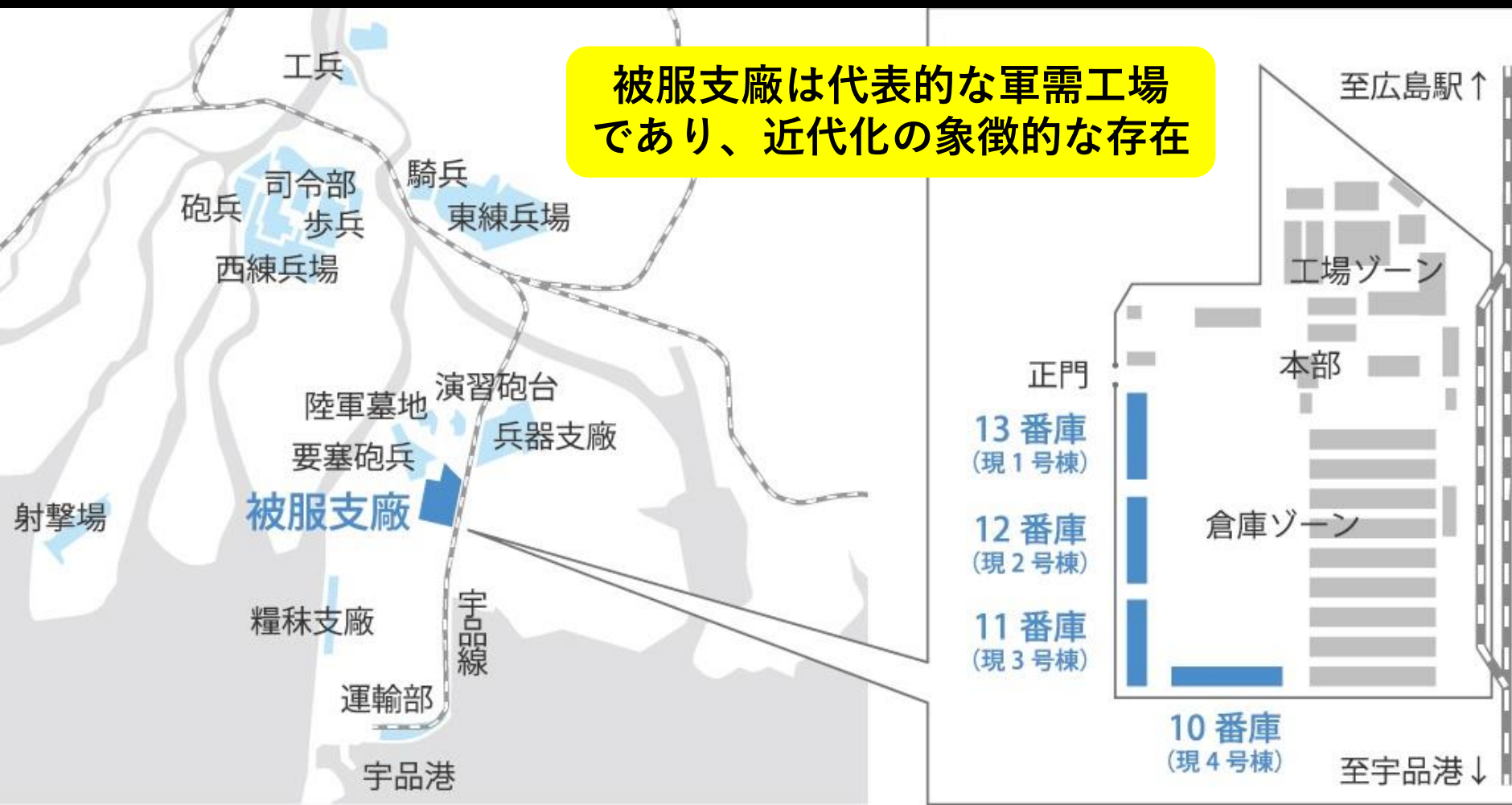


(大正十二年一月要塞認可)

宇品陸軍運輸本部長橋

(蔵所館書立県立島廣)

# ■広島は大陸進出をにらんだ一大兵站基地となり、軍需をテコに経済を回して都市の近代化を進めた（例えば水道）⇒“軍都”の形成



Q

問題

ひふくししょう

被服支廠

とは、どういう意味？



# 被服支廠

服

陸軍なので  
軍服

Branch

本店支店の  
「支」

仕事場

工場

A

答え

軍服や軍靴を  
製造/修理/保管/供給する  
施設...の支所

被服本廠は東京。支廠は大阪と広島のみ※。

※終戦間際に各地に設置された支廠は除く

■1905年 日露戦争の還送被服品の洗濯工場  
建設が決定 ⇒ 陸軍被服廠広島発出所を設置  
⇒ 1907年に被服”支廠”に昇格。

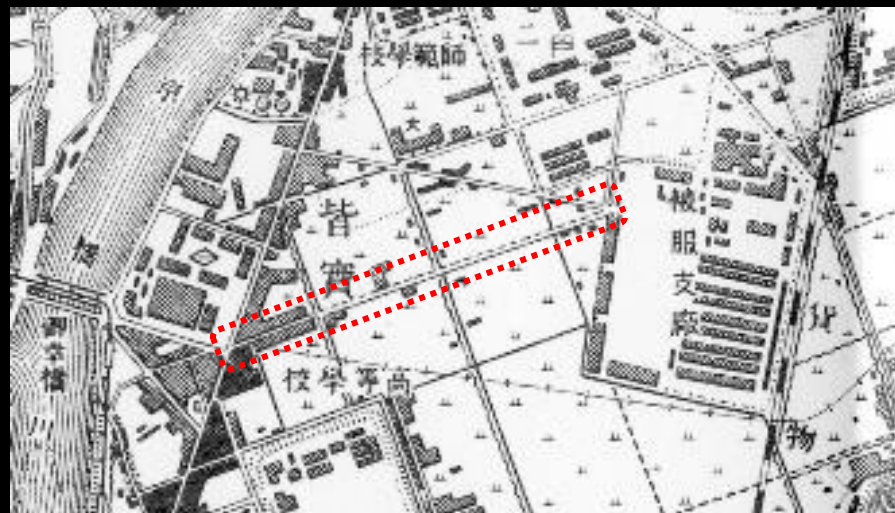
旧13番庫（現1号棟）

事務所棟（1967年解体）

レンガ塀（2020年解体）



- 広島支廠では九州や外地の部隊を主に担当。
- 工場の賃金は比較的高めで、多くの女工が働いており、保育所などの福利厚生施設もあった。
- 民間からの買上げ品も多く、地場産業の発展にもつながった。
- 敷地の北半分は工場  
南半分は倉庫。
- 正門へ通じる通勤路は被服廠通りと呼ばれた。



■終戦間際には木造建物の撤去、被服品や機械の疎開が行われ、事務所も赤レンガ倉庫内に移転。

■被爆時には損傷するも倒壊せず、臨時救護所となった。⇒後述

■戦後は校舎などに使われた後、日通倉庫や広大の学生寮となる。1995年頃に使用停止、現在に至る。（1～3号棟は県、4号棟は国）

■利活用の議論は今回が三回目

- ・1997年：瀬戸内海文化博物館構想 ⇒ 中止
- ・2000年：エルミタージュ分館構想 ⇒ 取りやめ
- ・2021年～：今回

## 2. 被服支廠倉庫を とらえるポイント

# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

**① 圧倒的な大きさ**

---

② 広島近代史を体現する存在

③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン

④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

# ■江戸時代の新開地（元は遠浅の海）で農地 だった場所に建設された大規模な軍需工場



被服支廠建設当時（1905年）レンガ倉庫はまだない。（広島市公文書館所蔵）

# ■現存するのはレンガ倉庫4棟のみであり、 往時の敷地のごく一部に過ぎないが...



旧10～13番庫が  
現存している。

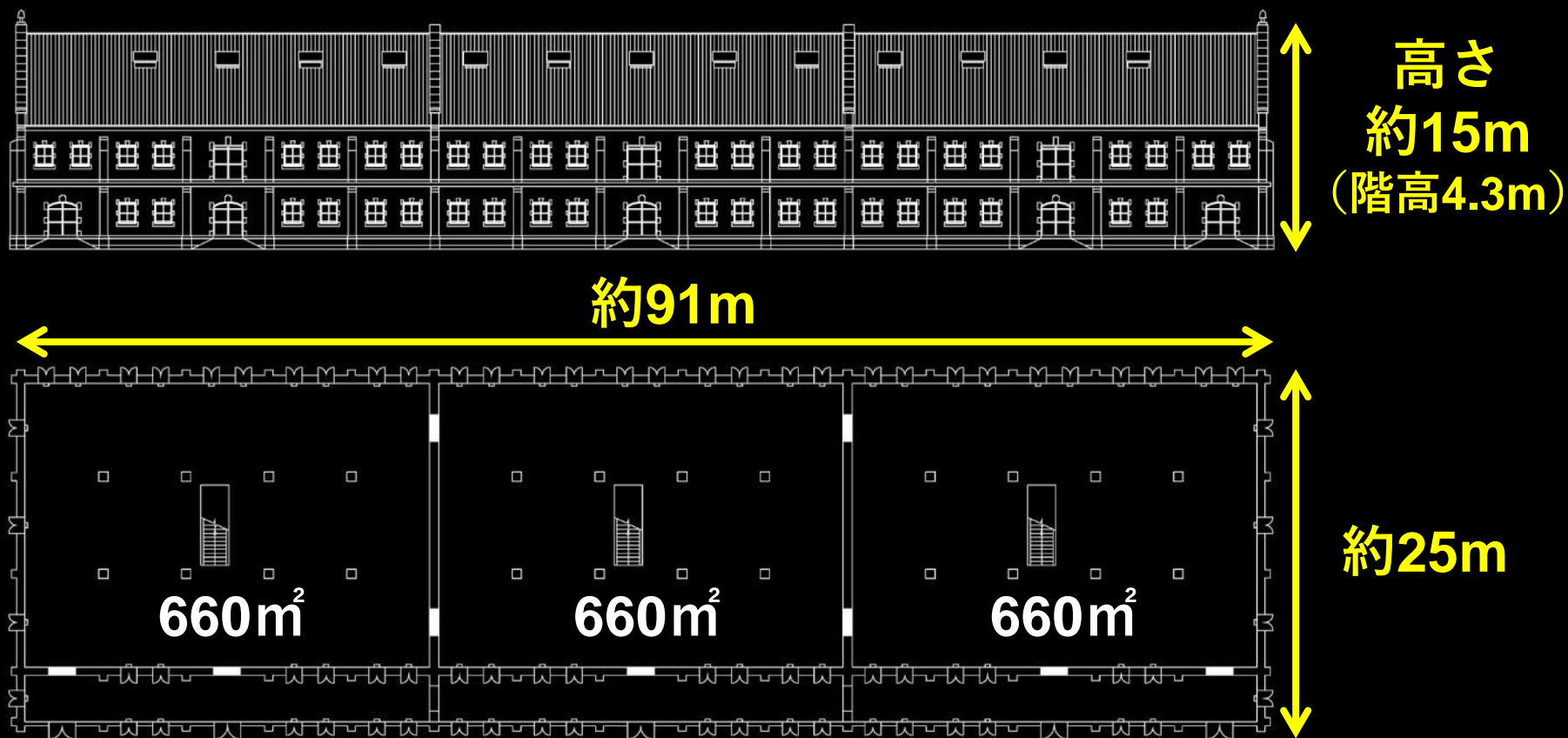


■それでも百米級の建屋が並ぶ**圧倒的な大きさ**  
連続するレンガ壁面として国内最長クラス





# ■床面積は4棟で約23,000m<sup>2</sup>



レンガ壁で仕切られた大部屋が3室×3層×4棟=36室ある

1棟の床面積5,500m<sup>2</sup> ⇒ 4棟で約23,000m<sup>2</sup>

ここでは国所有の4号棟も含めた全体像を示す。数字はアーキウォーク広島調べによる（大まかな目安）

# ■23,000㎡は横浜赤レンガ倉庫をも上回る

---

横浜赤レンガ倉庫  
延床約16,200㎡  
(5500 + 10700)



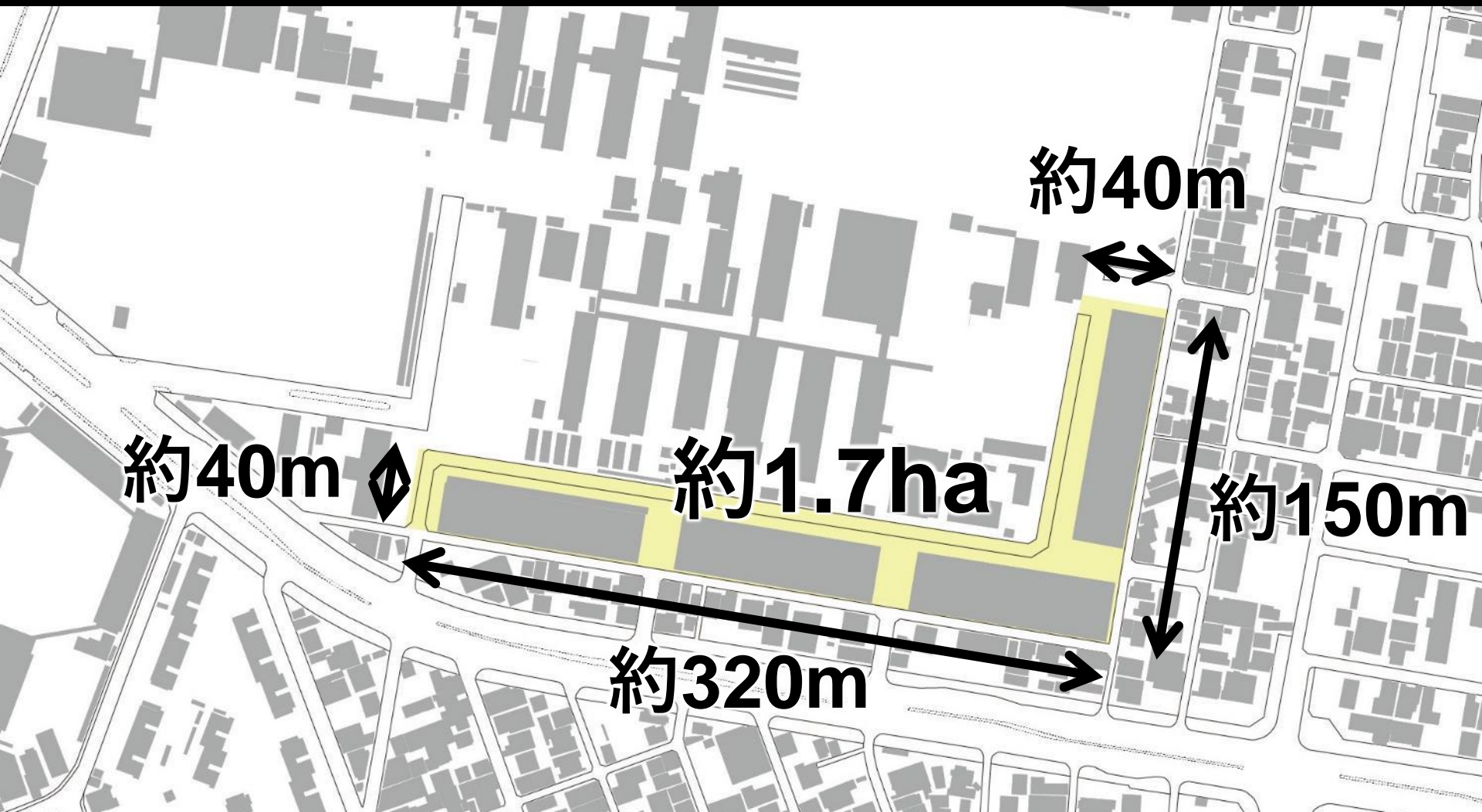
広島パルコ本館  
延床約23,000㎡ (売場約13,000㎡)



広島市まちづくり市民交流プラザ  
延床約5,800㎡ (校舎除く)



# ■現状の敷地は約1.7ha



アーキウォーク広島 調べによる（地図を計測しており精度は高くない）

# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ + R C、レトロ + モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える



■被服支廠の先には港、更に先には大陸がある  
(宇品港には陸軍運輸部の本拠地があった)



# ■被服支廠倉庫は市内最大の近代化遺産であり “軍都のスケール”を体感できる唯一の場所



旧10～13番庫が  
現存している。





■歴史を学ぶには書物で知識を得るだけでなく  
**五感で得る実感**が不可欠。4棟が揃って残る  
意義は“**実感を得る機会**”にある。

ここに身を置くだけで、広島の  
近代史を直感的に理解できる



- 被服支廠倉庫は軍都として発展した**広島**の**近代史を体現する存在**であり、仮に被爆していなかったとしても重要性は変わらない。
- また、近代のみならず、広島**の戦後復興を支えたことも歴史の一部として重要。**

- ・被服支廠 ⇒ 学校、倉庫 ⇒ 4棟現存
- ・兵器支廠 ⇒ 県庁、病院 ⇒ 現存しない
- ・糧秣支廠 ⇒ 工場等 ⇒ 一部が資料館に

- 保存/活用においては、**都市の記憶（近代化、戦災、復興）**を説得力ある形で次代につなぐ姿勢が求められる。



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋RC、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

■本作の竣工は1913年で、RC（鉄筋コンクリート）造の建物として**日本最古級**。



1911年  
旧三井物産  
横浜支店



1903年  
フランクリン通りの  
アパート（フランス）

■**レンガとRCを併用**する極めて珍しい※1  
構造であり、レンガからRCへと移行する  
過渡期の様相をよくとどめる。

■関東大震災前の建築だが、広島は既に芸予地震※2を経験し耐震性の意識はあったと推察

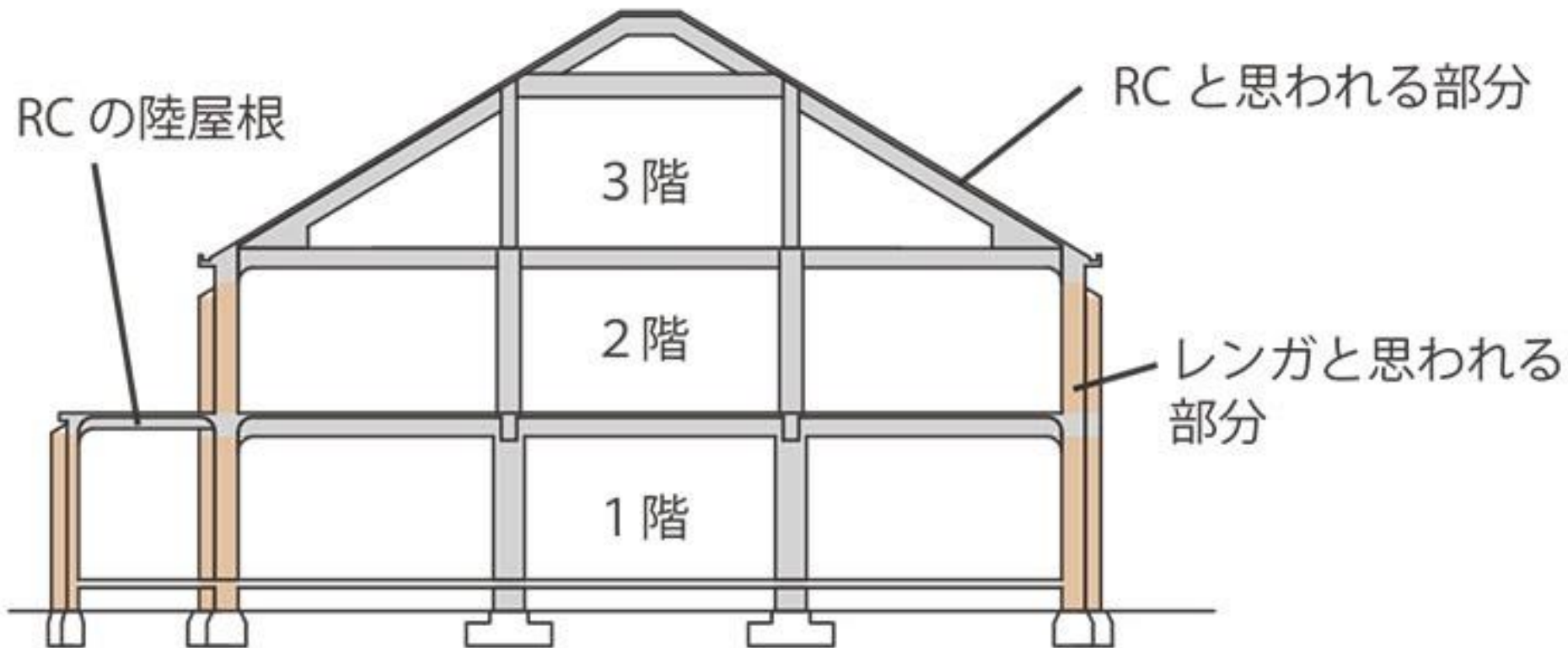
---

※1 他の現存例としては佐世保の旧海軍凱旋記念館がある。

※2 1905年の芸予地震ではレンガ造だった呉の海軍施設が一部倒壊した

## ■レンガとRCの併用（イメージ）

〔 屋根板がRCというのは大変珍しく、  
技術的なチャレンジの跡が伺える。 〕



■内部はレンガではなくコンクリートでできており、部屋はとても広い。活用上は有利。





■レンガとR Cを併用した理由は不明。

■本作はあくまでレンガ造であって、内部の柱や床（従来は木や鉄で作っていた）をR Cに置き換える技術的な試みがなされたと推測。



レンガ壁の上に木造の梁と床が直接載る

スオメンリンナ要塞  
（フィンランド）の  
旧陸軍倉庫



■普通のレンガ建築の内部は壁だらけになる。  
被服支廠はこれを嫌ってRCにしたのかも？

半田赤レンガ建物（愛知県半田市）



■外壁と内部で構造を変えた結果、空間の印象も内外で全く違う。

赤レンガ  
...レトロな印象



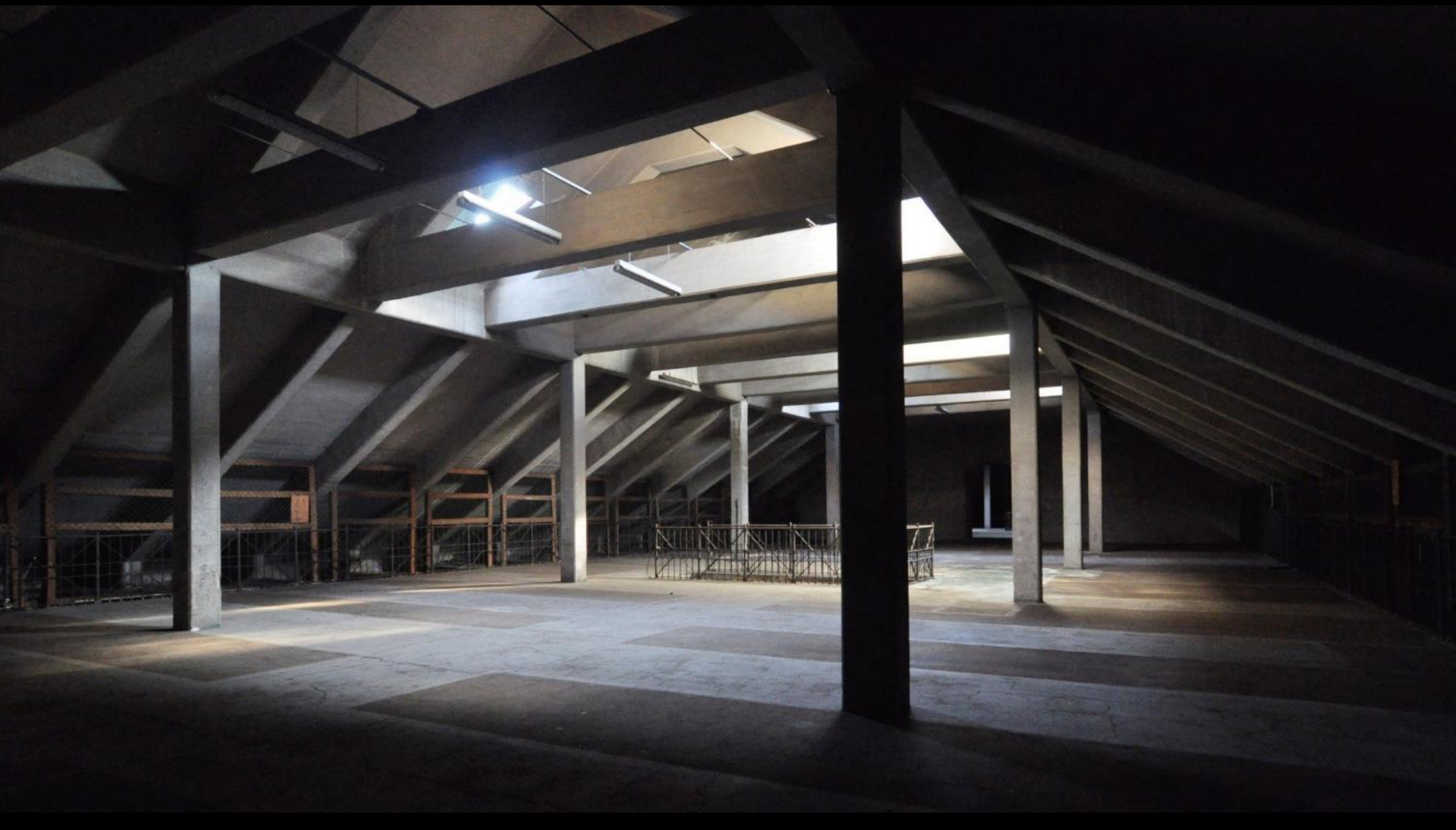


■外壁と内部で構造を変えた結果、空間の印象も内外で全く違う。

コンクリートで大スパン  
...モダンな印象



■特に3階は、傾斜するRC屋根・太く斜めの梁・細い柱で構成される独特な内部空間に。





# ■戦後の若干の補修・追加箇所がみられる (2号棟1階)



# ■戦後の若干の補修・追加箇所がみられる (2号棟1階)





# ■ 4号棟は戦後に学生寮として使用された際の設えが残っている



# ■ 4号棟は戦後に学生寮として使用された際の設えが残っている





# ■建築として、他にも多数の見どころがある

石とRCで意匠を揃える

柱ではなく  
バットレス

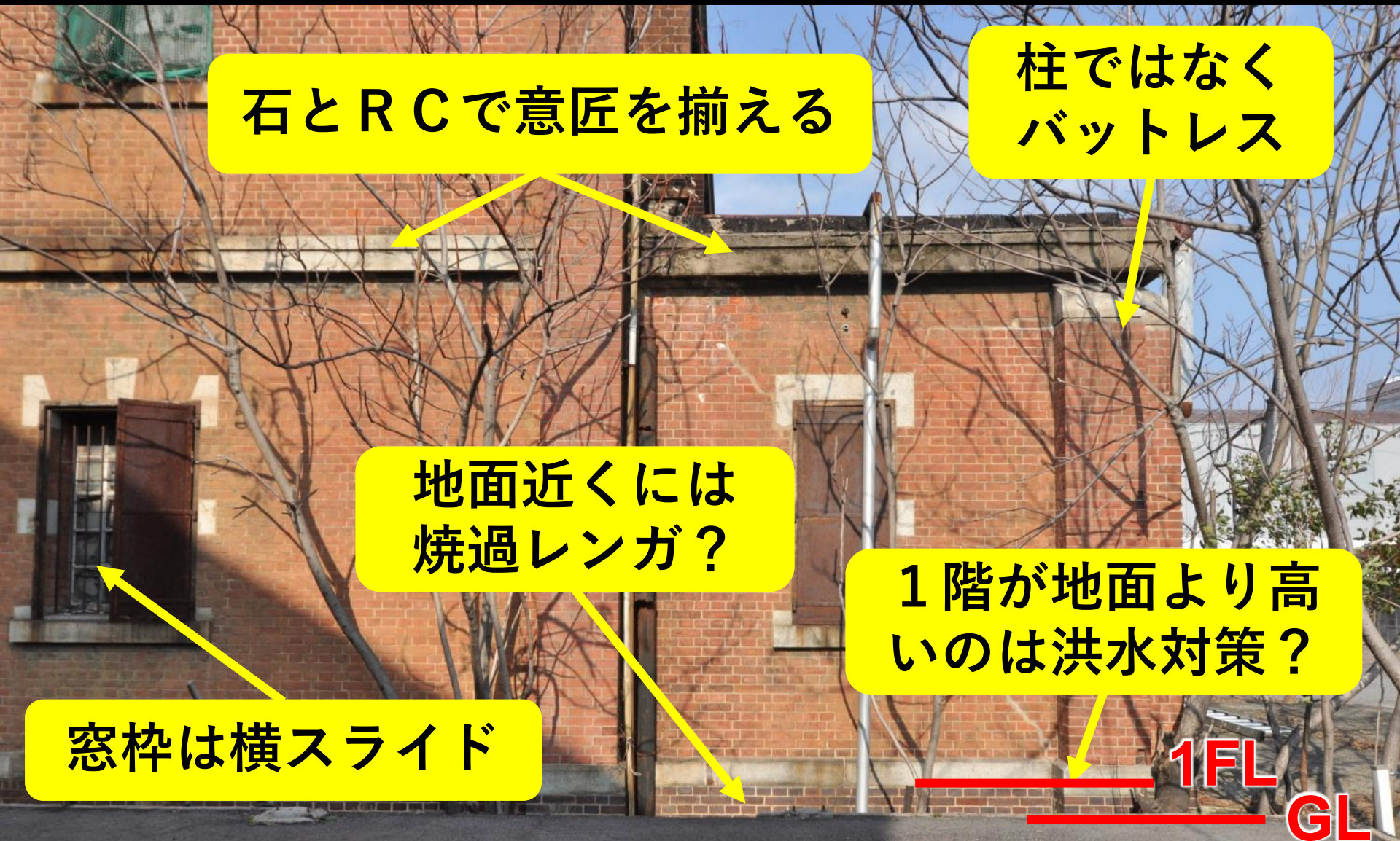
地面近くには  
焼過レンガ？

1階が地面より高いのは洪水対策？

窓枠は横スライド

1FL

GL



# 被服支廠倉庫をとらえるポイント

- ① 圧倒的な大きさ
- ② 広島近代史を体現する存在
- ③ レンガ＋R C、レトロ＋モダン
- ④ 貴重な被爆遺構、しかも使える

## ■被爆建物とは...

- ・ 広島市は爆心地から5km内のものと定義※<sup>1</sup>。被戦災建物に特別な意味を与える意識は他の戦災都市にはない※<sup>2</sup>特有のもの。
- ・ 被爆建物は、被爆者や被爆樹木等とともに原爆被害に遭遇した当事者とされ※<sup>3</sup>、その保全是公共性を帯びると捉えらえる。

---

※<sup>1</sup> 広島市 被爆建物等保存・継承実施要綱（1993年）

※<sup>2</sup> 原爆被害は通常空襲とは一線を画し、広島では戦災復興も特別法に基づく「平和記念都市建設計画」とされる。長崎では浦上天主堂の保存論争等を経て、現存する被爆建物は僅か（城山小校舎のみ？）

※<sup>3</sup> 例えば被爆建物に係る国の予算は被爆者援護の一環と整理されている

# ■被爆建物への意識も時代により変化しているが、建物数は減少の一途。

1945年

- 生活再建のため、焼け残った建物を使用（被爆建物という意識はない）
- 原爆ドームの保存論争。市は解体方針で市民は賛否が分かれる

↓

節目①

1966年 原爆ドーム保存の市議会議決

- 高度成長期に多数の被爆建物が解体され喪失
- 1985年 最大級の被爆建物だった旧市庁舎の解体
- 1990年 被爆建物の保存を求める市議会議決

↓

節目②

1993年 被爆建物の把握と支援制度の創設（市）

⇒被爆建物の定義（爆心地から5km）が定まる

- 支援制度創設後も被爆建物の解体が相次ぐ
- 2016年 長崎では複数の被爆遺構をまとめて国史跡指定
- 2020年 被服支廠倉庫の保存論争

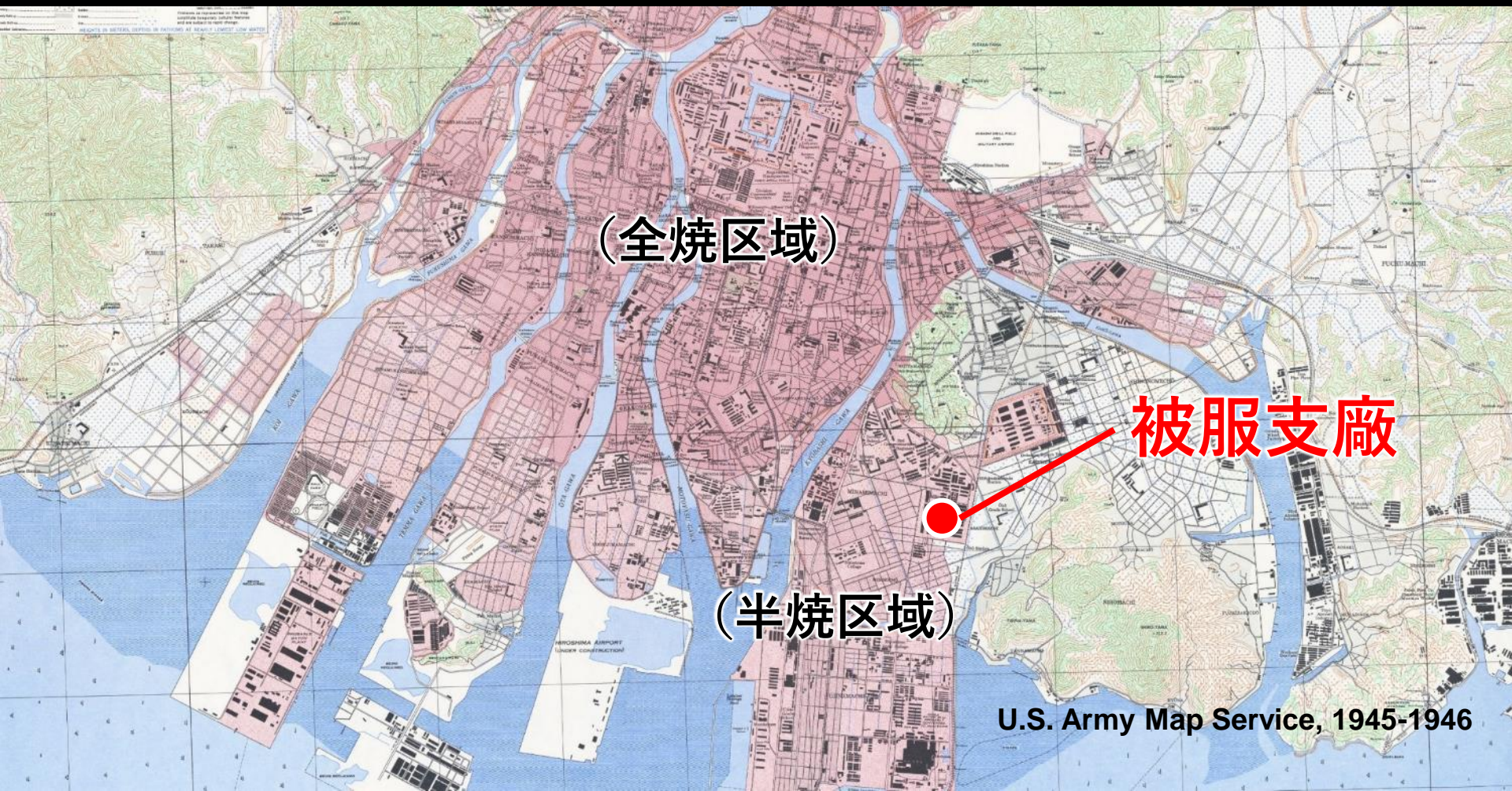
↓

現在



■被爆時は焼失を免れるも爆風により損傷

■レンガ倉庫は臨時救護所となったため、建物内での死者数も最大級との指摘がある。





■レンガ倉庫は戦後もそのまま使用されたため  
被爆時の姿がほぼ完全に残る。

⇒ 当事者がそこにいるという説得力



変形した鉄扉



■レンガ倉庫は戦後もそのまま使用されたため  
被爆時の姿がほぼ完全に残る。

⇒ 当事者がそこにいるという説得力



瓦もオリジナルの可能性大



■さらに、原爆ドーム等とは異なり、改修することで使い続ける（⇒何かを創造する）ことができる。



イメージ：KIITO（神戸市）



# 3. 各地で進む レンガ建物の活用

- レンガ建物の保存/再生は海外では一般的。国内でも少数ながら行われており、決して目新しいものではない。
- 改修時に用途を変える場合、公共運営なら博物館等、民間運営なら店舗等、**不特定多数が来場する施設となるケースが大半。**  
(海外ではオフィスや住宅の事例もある)
- 一方、“戦災の痕跡”を特別に扱うケースは国内では（自分の知る限り）見あたらない。

# ■石川県立歴史博物館 ... 3棟の陸軍倉庫（1909-14年）を改装 建物ごとに保存方針を変えている

延床約8,000m<sup>2</sup>  
(被服支廠倉庫1.5棟分)





# ■横浜赤レンガ倉庫（1911-13年） ...港湾倉庫を横浜市が取得し改装 1号棟は文化施設、2号棟は商業施設

延床16,200m<sup>2</sup>  
(被服支廠倉庫3棟分)







# ■半田赤レンガ建物（1898年） ...旧ビール工場を市が取得し、1階部分のみ 展示や商業施設へ再生（身の丈の範囲で）

利用しているのは2,700m<sup>2</sup>程度  
（被服支廠倉庫0.5棟分）





■ イーペル衣料会館 Ypres Cloth Hall (ベルギー)  
...街のシンボリックな建築だが第一次大戦で破壊  
され1960年代に再建



戦争博物館 In Flanders  
Fields Museum のほか  
展示ホール・観光案内所  
の複合利用

Photo by Marc Ryckaert - Ypres  
(Belgium) cloth hall and belfry  
(2018) / CC BY-SA 4.0

# 4. おわりに



# 2020年に独自に作成した再生イメージ



## 旧陸軍被服支廠倉庫 再生イメージ

旧広島陸軍被服支廠に係る安全対策等の対応方針に係る意見 (別紙)  
提出者：高田真(アーキワーク広島 代表)



### 計画地の位置づけ・解釈

- 近代広島のなりたちを体現し、人類に残された最大規模の被爆遺構の広島近代史を、復興と平和を志する人々の活動とを、世界への情報発信の機会を導入。
- 軍需工場だった土地の記憶。ものづくりの場としての土地の記憶を継承し、継続的な活動を創出していく。
- 周囲には学校・住宅地が形成。周辺は住宅地が形成し、周辺の高層ビル群と対比する。近隣の情報発信の機会も活用。

### 公民連携による事業推進

広島市は建設費が大きい。4号棟それぞれで保証金等の支出を分け、広島市が中心となって、今後の収支に合わせた事業計画を立案する。

- 1号棟 保存を重視し、現在の姿を維持しながら、展示場として活用。資料展示場、展示場は広島市が中心となる。
- 2号棟 工場を再生し、民間企業が工場・ショップ・カフェなどを中心に活用。広島市が中心となる。
- 3号棟 工場を再生し、民間企業が工場・ショップ・カフェなどを中心に活用。広島市が中心となる。

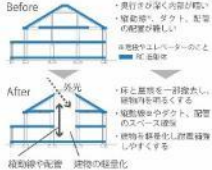
### 周辺環境に配慮した交通計画

駅周辺の歩道を一歩広げるとともに、アクセス専用が設けられ、人混みも少ないよう配慮する。



### 2～4号棟は床・屋根を一部撤去

特に天井や床・屋根を撤去して2～4号棟については、高層ビル群と対比する高層ビル群を創出する。



■ 人類社会に残された最大規模の被爆建物を活用し、アートを軸とするピースメッセージの発信、ものづくり・スタートアップの支援拠点へと再生させる。  
■ 公民連携事業により、民間資本でのホテルなどの収益施設を導入することで、所有者(国・県)の負担低減を図る。

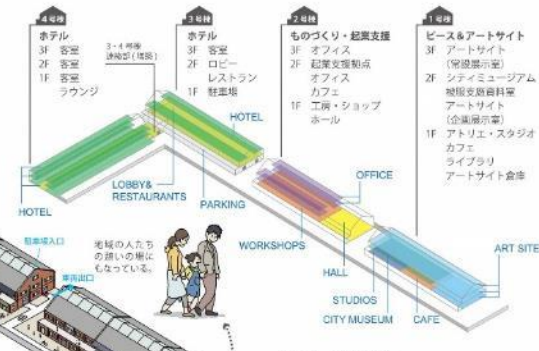
### 34号棟 ライフスタイルホテル



3・4号棟は外観と一部のインテリアを保持しながらも大規模に改修し、ライフスタイルホテルへ再生させる。このホテルはただ宿泊するだけでなく、1・2号棟とも連携した特別な体験やイベント、そして世界で唯一この存在価値を持つ貴重な被爆建物に滞在する価値を、高層ビルやサービスなども提供していく。



ホテルのレストランには屋外席もあり、季節に応じた食事を楽しむことができる。



### 2号棟 ものづくり・スタートアップ支援

2号棟は、ものづくりの場としての発信につながる施設として、工場・ショップやカフェ・オフィス、さらにスタートアップを支援する起業支援センターや交流スペースを整備する。セミナーや展示会場となる3階の多目的ホール(600㎡)は、ピース&アートサイトに隣接するイベントにも活用される。



2～3階にはシェアオフィスがあり、起業家が様々な交流の中で事業のアイデアを練っている。

草創期の企業からここに集まるスタートアップが多く、外国人も入るようになり、さらに広島県方面への人口が生まれている。



多目的ホール(約600㎡)では、セミナーや展示会など多彩なイベントが開催される。



### 1号棟 ピース&アートサイト



1号棟は魅力を残しながら、広島をテーマにしたアート展示・創作拠点と、シニアミュージアム(都市博物館)へ再生させる。3号棟は広島をテーマとするアート作品を中心に、現代美術などから作品の貸し出しを受け展示する。また、1号棟のアートではアーティストがボランティアで作品制作し(参加者はその様子を見学できる)、その作品は高層に展示された。

世界的アーティストが被爆建物のアートリエを制作。できあがった作品は世界を巡回していく。



アーキワーク広島のホームページにて公開

# ■再生イメージを作った時に考えたこと

## 現地と建物の位置づけ・解釈

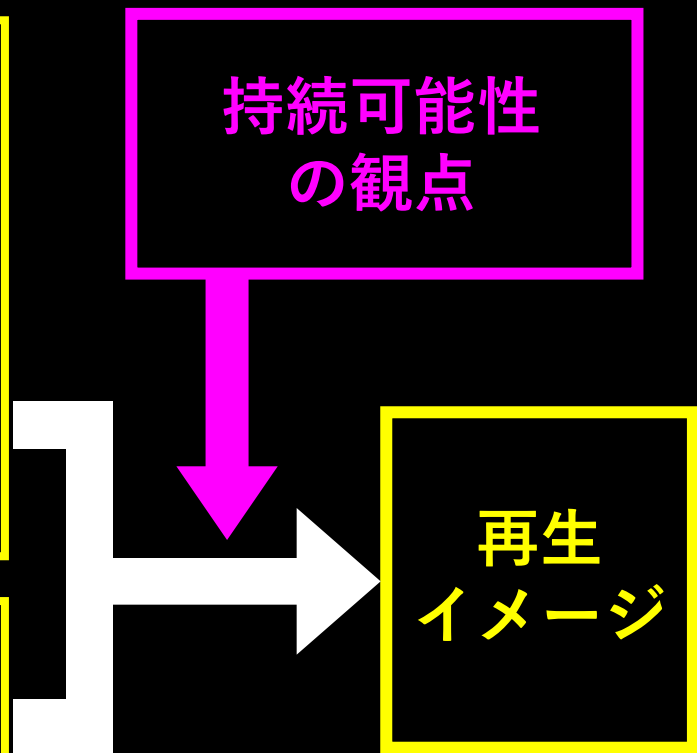
- 広島近代史を体現し、人類に残された最大級の被爆遺構
- 軍需工場だった土地の記憶
- 周辺の現況との調和

## 広島全体を見据えた課題意識

- 都市の記憶（近代化・戦災・復興）を説得力ある形で受け継ぐ必要性
- 丹下健三の「平和を創る工場」の機能を補完する必要性
- 地域経済にメリットを生む必要性

持続可能性  
の観点

再生  
イメージ



■発想は自由に！

...でも、具体の計画を考える段階になったら  
持続可能性の観点を忘れるべきではない。  
(保存工事はゴールではなくスタート)

保存工事を受けたが残念な状態  
になっている、とある洋館の話

# ■発想は自由に！

...でも、具体の計画を考える段階になったら  
**持続可能性の観点**を忘れるべきではない。  
(保存工事はゴールではなくスタート)

＜活用を前提とする保存＞

多くの人を訪れる用途の導入、運営上の工夫

多くの人  
が愛着を  
感じる、  
誇りに  
思う

自らの  
維持費は  
自らが  
稼ぐ

建物を持続的に保存できる



## さいごに...

近年も多くの被爆建物が失われており、補助金だけでなく、持続可能性を与える総合的なサポート（空き家再生事業にも似た）が必要と考えられる。



※広島アンデルセン（写真左端）は壁面の一部が保存されている

**いま、被爆建物の保存活用を正面から&多角的に突き詰めて議論する、重要な節目を迎えている。**

**残り僅かとなった被爆建物を次世代に受け継げるかは被服支廠倉庫の再生にかかっている。**